

令和7年度 全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画

呉市立仁方中学校
(仁方中学校区)

全国平均値との差

	国語	数学
呉市教育振興基本計画〈指標〉	+5.0	+5.0
令和8年度	-	-
令和7年度	+7.7	+6.7
令和6年度	-4.1	-3.5
令和5年度	-7.8	-9.0
令和4年度	-1.0	-10.4

全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組

◎…各学校 ◇…中学校区

科目	重点課題	改善の方策	検証
国語 言葉の特徴や使い方 読むこと 話すこと・聞くこと 書くこと	本校 <u>62%</u> 全国 <u>54.3%</u> 県 <u>55%</u>	◎□「変換した漢字として適切なものを選択する」の設問通過率が26.1%だった。(広島県33.9% 全国35.2%) ◇複数ある資料の違いを見つけたり、それについて理由を付けて説明したりすることに課題がある。【読むこと】	◎同音異義語の設問に対する解答率が良くなかったことから、言葉の意味を考えて適切に漢字が選べるよう指導する。 ◇複数ある資料の重要な部分に線を引き、要旨を捉えることで共通点・相違点を見つける活動を設定する。
			◎2学期期末試験(第3学年11月 同音異義語の漢字問題) 目標50%→結果56% ◇小学校・・・全国学力(設問2一)(第5・6学年、2月) 目標65%→結果68.8% 全国学力(設問3二(2))(第5・6学年 2月) 目標50%→結果59.6% 標準学力調査(設問6)(全学年、12月) 目標60%→結果60.7% 中学校・・・2学期期末試験(第3学年11月 複数の資料を用いた設問) 目標30%→結果68%
数学 数と式 データの活用 図形 関数	本校 <u>55%</u> 全国 <u>48.3%</u> 県 <u>47%</u>	◎計算方法や基礎的な知識はおおむね理解できている。しかし、発展的な内容や数学的用語の捉え方を間違っている生徒が多い。 ◇算数・数学用語を正しく認識し、事象について文章で説明することに課題がある。	◎数学的用語の意味を理解する問題を解くことや数学用語を正しく使って説明できる授業を展開する。 ◇算数・数学用語を正しく使うことができるように、何度も意味を確認する。文章のモデルを提示し、根拠を持って説明できるように指導を継続する。
			◎◇小学校・・・標準学力調査の数や言葉を用いて説明する問題(第3学年以上) 目標50%→結果27.5% 全国学力(設問3(2)問題(第5・6学年、2月)) 目標50%→結果57% 中学校・・・実力試験(第3学年10月 データの活用) 目標30%→結果34%

【来年度に向けて】

漢字や用語など基礎知識を確実に習得させる。

「基本的な計算力」と「数学的な概念」を確実に定着させる指導をしていく。「基本的な計算力」は反復練習をし、「数学的な概念」は授業で何度も教えることや説明させることで定着させていく。